

2018年2月16日

記録 2班星田

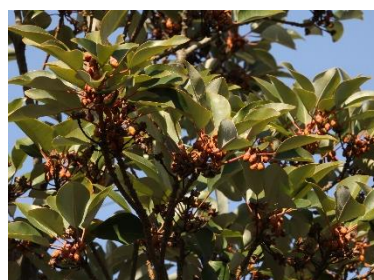
寒いけど日差しに煌めきが宿り、鳥の声も心なしか響いて聞こえる。

「光の春」ピッタリの観察会日和でした。

寒さをじっと耐えて春を待つ冬芽と普段あまり見ることのできない樹木を中心に観察しました。

山本駅・・・最明寺滝入り口

住宅の庭で見かけた珍しい庭木（この辺りは植木屋さんが多いところと言われています。）



ロウヤガキ（老爺柿、老鴉柿）カキノキ科 （常緑種と落葉種）
熟すと黒く鴉の色になるからこの名前。いつの間にか老爺とも中国原産。

ロドレイア（マンサク科）
別名シャクナゲモドキの蕾。
もうすぐピンクの花が見られる



ハンカチノキ（ミズキ科） 果実が残っていた。

チャンチン（センダン科）中国原産



メギ（メギ科）別名コトリトマラズ
鋭い3本の棘の根元に冬芽（展葉）

イチゴノキ（ツツジ科）別名ストロベリーツリー
地中海原産。ヤマモモに似た果実で秋に赤熟。



ここは宝塚市（スミレの花）

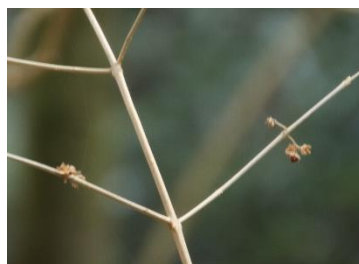
最明寺滝往復



アリドオシ（アカネ科）
棘の長さ約 1 cm～2 cm



果実がまだ残っていた。



ヤブムラサキ（シソ科）下向きの果実の残り
冬芽に葉柄がはっきりと見える。



維管束痕や星状毛まではっきりと写せなかった。



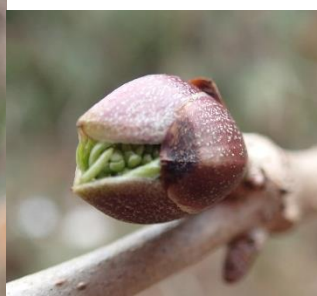
スノキ（ツツジ科）
先の方の 1 年枝は緑色



冬芽は紅色を帯び
芽鱗は 2 枚



ニワトコ（ウコギ科） 展葉が始まりかけ



<シダの仲間たち>



シシガシラ



コウヤコケシノブ



ヒトツバ



トウゲシバ

<この辺りの地質>



丹波層群の岩肌



鉄分の溶けだした流水跡



最明寺滝



リンボク（バラ科）の幼木
ヒイラギガシの名前の根拠に



ガマズミ（レンブクソウ科）
まだ果実が残っていた。



仮頂芽と側芽。共に荒い毛がつく。
枝先に果実がなったときは仮頂芽 2 個



アオキ（アオキ科）
日本海側の種は葉が細く小型



カナメモチ（バラ科）
別名アカメモチの通り赤い冬芽



ガマズミの頂芽と頂生側芽
荒い毛がある



ナガバジュズネノキ（アカネ科）今日の目玉植物 昨年の果実。 1 節おきに葉がつく。
ジュズネノキより葉が長く、棘は無いが短い。葉は 1 節おきにつき、果実は節ごとにつく。



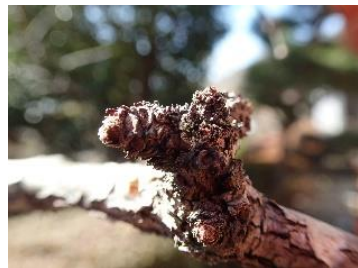
ルリミノキ（アカネ科）今日の目玉植物 葉腋に花芽の準備ができている サカキ（サカキ科）冬芽



ユズリハ（ユズリハ科）葉腋の丸い芽は花芽

クロバイ（ハイノキ科）冬芽（葉芽）

満願寺近辺



ネジキ（ツツジ科）3 大芽の1つ。維管束痕は突出 ナツメ（クロウメモドキ科）短枝に小枝が束生する



コバノミツバツツジ（ツツジ科）花芽

リョウブ（リョウブ科）芽鱗が剥がれかけの状態
をナポレオンハットなどと称し見付けやすい

北雲雀きずきの森へ



オオバヤシャブシ（カバノキ科）葉芽、雌花、雄花の順 ヤシャブシ（カバノキ科）雄花、雌花、葉芽の順



ハンノキ（カバノキ科）

センダン（センダン科）冬芽、葉痕の大きさは葉の大きさを表す
花柄の色などはっきり見えないが樹形から判断。



キツタ（ウコギ科） ソヨゴ（モチノキ科） 昨年の果実 ナワシログミ（グミ科）

これから大き
くなるよ

冬芽のいろいろ



タラノキ (ウコギ科)



アジサイ (アジサイ科)



アカメガシワ
(トウダイグサ科)



クサギ (シソ科)



ノダフジ (マメ科)



イソノキ (クロウメモドキ科)

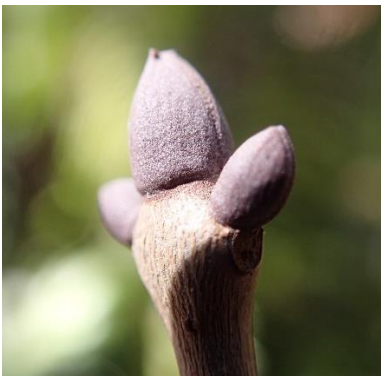


エゴノキ (エゴノキ科)

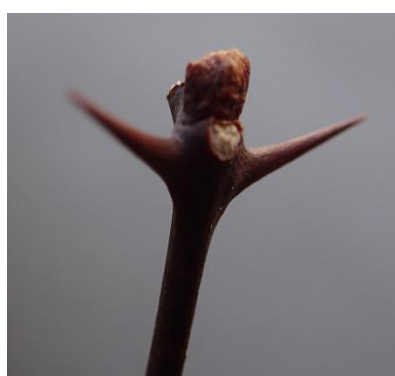
基部が膨らみ、芽鱗が3枚見える

主芽は枝に密着し必ず予備芽を伴う

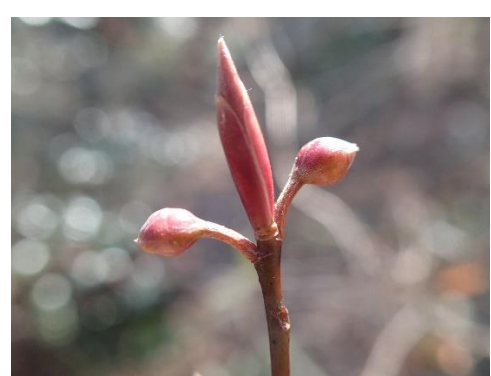
☆芽鱗に覆われない冬芽(裸芽)はそれぞれ毛に覆われたり葉柄の中に保護されて春を待つことが多い。



マルバアオダモ (モクセイ科)



サンショウ (ミカン科)



クロモジ (クスノキ科)

薄い青紫色の独特の冬芽

棘は対生、イヌザンショウは互生

葉芽と両脇の花芽。日向にあるほど赤い



コナラ (ブナ科)



クマノミズキ (ミズキ科)

頂生側芽が多い

筆ペン型の頂芽



ヒメコウゾ (クワ科)

冬芽は枝に密着。托葉痕も見られる

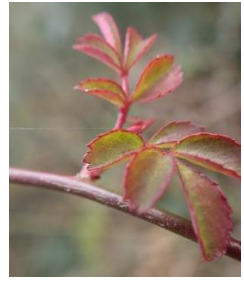


ナガバモミジイチゴ（バラ科）



ビロードイチゴ（バラ科）

ビロード状の毛におおわれた葉と虫瘤、冬芽

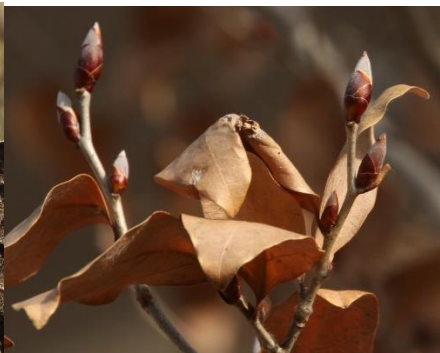


ノイバラ（バラ科）

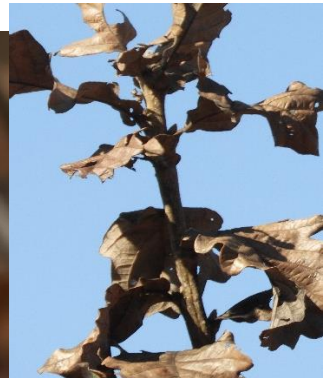
早々と展葉していた



カシワ（ブナ科）



ヤマコウバシ（クスノキ科）



ナラガシワ（ブナ科）

☆3種とも葉をつけたまま冬越しをする場合が多い。他にクヌギ、コナラなどの幼木や順次開葉した1年枝にもこのような現象がみられる。



ヤマボウシ（ミズキ科）



花芽（混芽）



ウワミズザクラ（バラ科）



カキノキ（カキノキ科）

ハナミズキも樹形は似るが玉ねぎ型の花芽

2年枝の冬芽は落枝痕の横から 下方に2年枝の枝痕。

草本類はロゼット状の個体がいくつか見られた。その一部

大地のぬくもりと太陽の光をできるだけ沢山取り入れることにより、寒さを凌ぎ、エネルギーを貯えようという植物の逞しさを拾ってみました。



キュウリグサ
（ムラサキ科）



ヒメジョオン
（キク科）



ギシギシとノボロギク
（タデ科）と（キク科）



ノゲシ
（キク科）



ハハコグサ
（キク科）

その他に



スダジイの板根



オオカミキリが入った後
黒点があちこちにある。



アリ道
木屑を固めて作る。
所々に穴が見られる。



いたる所にお地蔵さま



ジョウビタキ
スズメ目ツグミ科 ♂



アセビ (ツツジ科)
花が咲きかけていた。



タムシバの花芽
(モクレン科)



満願寺は川西市
リンドウの花

☆最明寺滝道、満願寺社叢、八十八か所巡り（そのうち五十三か所巡り）、きずきの森のコースでは、常緑照葉樹と落葉樹他、開けた草地と住宅地などで園芸種を含め様々な植生に出会う事ができました。また、ルーペで覗く冬芽の世界は、その大きさ、維管束痕の形等、これからの姿形を思い浮かばせるとともに思わずふふっと笑えてくるような愉快的表情を見せてくれました。

歴史、地質、信仰、様々な要素を持つこのルートはもっとゆっくり観察したいと思いました。